

05年08月26日■安明進氏、蓮池薫氏コメントに反駁

本で行われた調査会の定例記者会見で、安明進氏が自身の国会での証言の翌日に蓮池薫氏の出したコメントに対する反論を述べました。要旨は以下の通り

蓮池氏は自分が金正日政治軍事大学にいたことがない、自分を見たことがないと言っている。確かに当時は「朝鮮労働党中央委員会直属政治学校」という名前であり、金正日政治軍事大学という名前になったのは1992年1月である。しかし、当時も今も「130連絡所」「人民軍695軍部隊」という名称を使っており、これは変わらない。北朝鮮が拉致被害者の死亡診断書を出してきたとき、そこには「695病院」と記載されていた。これが金正日政治軍事大学が日本人を今も管理している証拠である。

蓮池さんが自分を見たことがないと言っているのはある意味で正しい。彼らと会ったのは行事のときで、金正日政治軍事大学の本校講堂であった。自分たちは前に座っており、彼らは最後に入ってきて後ろに座った。出るときは最初だった。彼らは特別だったし、私は多数の学生のうちの一人に過ぎなかった。しかし、われわれの中には日本人を拉致してきた者がおり、そういう話題が座っていながらも出ていた。蓮池さんは他の拉致被害者に比べて非常に背が高く、頭一つ抜出していた。その次に背の高かったのが田中実さんだった。したがって蓮池さんは大変目立った。

逆に私が蓮池さんに聞きたいのは、「130連絡所」「人民軍695軍部隊」にいたことはなかったのか、子供たちは学校に行かせたときは遠くの学校だったろうが、幼稚園は金正日政治軍事大学の南朝鮮革命史跡館の裏の幼稚園に通わせたのではないか、といったようなことだ。

彼らは太陽里にいたと言っているが、金正日政治軍事大学は太陽里、東北里、新美里の3地区にまたがっている。私は彼らのいたのは東北里だと思っている。

彼らには話して欲しい。北朝鮮は例えば「話したらまだ残っている拉致被害者が帰れなくなる」とか「無事ではいられないぞ」と脅しているのだろう。また、今も北朝鮮から直接電話がかかってきたりするのだろう。北朝鮮に戻ってしまった平島さんもそうだった。しかし、綺麗さっぱり話してしまえば北朝鮮は逆に手出し出来なくなる。自分はそうしてきた。蓮池さんはいつも自分を避けているが、一緒に話し合い、一緒に闘ってくれるよう期待している。

(概略のみ・文責荒木)